©Copyright Oyama-ChristmasRose-FanClub.　All rights reserved.

種まきと幼苗の管理

1. 種まきから発芽まで

発芽促進処理をした種は、***<u>10月上旬に4号ﾋﾞﾆｰﾙﾎﾟｯﾄに播きます</u>***。
発芽自体は肥料分が無い方がうまくいきますが、発芽後は多少の肥料分が必要となります。
種まきから発芽までは土を乾かさないように注意が必要です。

1) 播種床
4号ﾋﾞﾆｰﾙﾎﾟｯﾄに、多少の肥料分を含んだ用土[注)]を 6～7 分目入れ、その上に新しい赤玉土小粒を 1cm ほど敷いて軽く水をやっておきます。
[注)] 赤玉土小粒6と完熟腐葉土(粉末状態)4をよく混合し、液肥(1,000 倍)で加湿したもの

2) 種まき
上で準備した播種床に、種子を(最大 10 粒ほど)間隔を開けて播きます。その上に新しい赤玉土小粒を 1cm ほど被せて軽く押さえ、たっぷりと水やりします。種の種類が違えば、たとえ1粒でも必ず別の4号ﾎﾟｯﾄに播きます。
播種した種の名前を書いた(鉛筆書き)ﾗﾍﾞﾙを立てます。

3) 置き場所
播種したﾎﾟｯﾄは、日当たりの良い暖かい場所で乾燥しないように管理します。
播種後発芽まで(1～2ｶ月)は 10～20℃とやや高めの温度で発芽を促進し、発芽後は 5～15℃と低めの温度で管理します。発芽後、多湿で温度が高いと腰折れ病が発生し易くなるので、高温(20℃以上)には注意が必要です。

4) その後の管理
播種したﾎﾟｯﾄは毎日看ます。乾燥は厳禁で、完全に乾かしてしまうと、もう発芽しません。
発芽時に表土が乾燥していると種の表皮が乾いて取れなくなり、マッチ棒のようになって双葉が展開できなくて生育が止まります。双葉が完全に展開するまでは表土を乾燥させないことが大切です。毎日声をかけて看てやりましょう。

5) その他
播種に用いるﾎﾟｯﾄは、小さすぎると生育環境が厳しくなり、管理が大変難しくなります。
1～数粒播く場合でも4号ﾎﾟｯﾄを使うと良いでしょう。大きい浅鉢に沢山の種子を播くのは、水管理は楽になりますが、鉢上げ時に根が絡んで切れ易くなります。
用土に黒土などの細かい土を用いると表土にコケが生えてきて、発芽不良や過湿の原因になり管理が難しくなります。
ﾋﾞﾆｰﾙﾎﾟｯﾄは底穴が1つしか開いていないので、置き場所の状態によっては排水が良すぎたり悪くなったりするので、平らなザルなど排水の良い均一なものの上に並べると、その後の水管理が楽になります。これはﾋﾞﾆｰﾙﾎﾟｯﾄ全てに共通して言えることです。

2. 発芽後の管理

気温がどんどん下がって行く時期なので、***出来るだけ日光に当てます。***
この時期は、***双葉が元気に展開することが最も大切***で、双葉が広くて大きい個体ほどその後の生育が旺盛になります。双葉にしわが出来たり枯れが入るのは、管理に問題があります。発芽から1年ぐらいまでの苗作りがその後の株の出来栄えを左右します(苗半作です)。

1) 水やり
控え目が原則です。表土が完全に乾いてからたっぷりとやります。1回にやる量を減らすのでなく、やる間隔を開けます。(場合によっては1～2週間に1回のこともあります。)

2) 肥料
「薄いものを控え目に」が原則です。双葉が展開した時点で 1,500 倍から 2,000 倍程度の液肥(3成分均等のもの)を水代わりにたっぷりとやります。本葉が1枚展開してきたら 1 回目と同じ濃度の液肥をもう一度やります。葉色がしっかりしていれば元気な証拠です。

3) 日当たり
十分に日光に当てます。日当たりのよい所へﾎﾟｯﾄを移動してでも太陽に当てます。ﾎﾟｯﾄに日が当たるとその部分の根の生育が促進するので、時々ﾎﾟｯﾄの向きを変えます。

4) その他
双葉は太陽電池ﾊﾟﾈﾙとして、この時期の唯一のｴﾈﾙｷﾞｰ製造元です。根から吸収する肥料などはｴﾈﾙｷﾞｰではなくｴﾈﾙｷﾞｰを造る原料です。 この原料と太陽の光を基に葉でｴﾈﾙｷﾞｰが造られます。苗の成長は双葉の面積に比例しますので、発芽後1年間は双葉の役割は絶大です。そのためこの時期は双葉が健全に生育するように全ての管理を行います。***肥料のやり過ぎ、気温の上げ過ぎは、双葉をダメにしてしまいます。***急がずじっくりと成長を見守りましょう。

3. 鉢上げ

苗床から掘り上げて、初めてﾎﾟｯﾄに1本植えすることを「鉢上げ」と言います。環境の変化に敏感な時期なので、***丁寧にやさしく扱います。***とくに根を乾かさないように注意します。

1) 時期
本葉が平均1枚展開した頃に行います。この時期には根も枝分かれして長く伸び、地上部に比べて驚くほど長く成長しています。発芽が遅れて本葉がまだ展開していない(双葉だけの)苗も、***3月中旬になれば全て鉢上げ***します。

2) 用土
植付ける用土はあらかじめ多めに準備しておきます。
細かくした完熟落葉堆肥3割と赤玉土小粒6割、黒土(または田の土)1割をよく混合し、液肥(3成分均等の 1,000 倍液)で保湿して、乾燥しない状態で保存したものを用います。化成肥料などの顆粒の肥料は使用しない方が安全です。(植え痛みの原因になります。)

3) 苗ほぐし

鉢上げする苗は、あらかじめ(2～3日前から)用土を十分に乾かしておきます。指の間に苗を挟み、ﾎﾟｯﾄを逆さにひっくり返して土を崩し、根を傷めないように1本づつばらして並べ、乾かさないように根に湿った土を被せておきます。

4) 植付け

3号ﾋﾞﾆｰﾙﾎﾟｯﾄに上記の用土を半分ほど入れ(ﾎﾟｯﾄの縁に沿って斜めに入れると植付けが楽になる)、ほぐしておいた苗を端から1本づつ優しく取り出して、根を丁寧にﾎﾟｯﾄに入れて、残り半分の用土を入れます。このとき苗を植える深さに注意して、双葉が分かれている基部が土の表面に少し出るように植えます。土は軽く押さえる程度とし、強く押さえつけてはいけません。植付け後は十分に水やりします。

5) 置き場所

植付け後は、暖かい日の当たる軒下などで霜を避けて管理します。

無暖房のﾊﾟｲﾌﾟﾊｳｽやｶﾞﾗｽ室など(狭いものは高温になるので不可)があれば更に良い条件が確保出来ます。

6) 鉢上げ後の管理

鉢上げ苗の生育適温は 5～15℃です。昼間は 20℃程度まで上がっても構いません。

極端に寒い夜(気温がﾏｲﾅｽ4℃以下)は、暖房の無い屋内に入れたり(翌朝10時までには外に出すのを忘れないこと)、防寒のためのｼｰﾄを被せたりします。

4. その後の管理と植替え

気温が上がり出す3月からは株も元気になり、新しい葉が伸びてくるので、マニュアル(以前配布したもの)に従って育苗管理を行います。

苗は成長にともなって根詰まりして来るので、9月と3月の年2回、順次大きいﾎﾟｯﾄに植替えます。

夏を越した3号ﾎﾟｯﾄの1年苗は、9月に入ると新しい葉を伸ばし始めるので、9月中～下旬に4号ﾋﾞﾆｰﾙﾎﾟｯﾄに植替えます。

冬を越した4号ﾎﾟｯﾄの2年苗は、3月に入ると根の張りも盛んになり根詰まりして来るので、下旬までには5号ﾋﾞﾆｰﾙﾎﾟｯﾄに植替えます。

その他の管理については、以前配布したマニュアルに従って対応して下さい。